■ハイセイコー記念（ＳＩ）アラカルト（過去 58 回の分析）

※第 1 回（昭和 43 年）から第 33 回（平成 12 年）までは「青雲賞」の名称で実施
※第 35 回（平成 14 年）から第 36 回（平成 15 年）までは 1,590m で実施
※第 40 回（平成 19 年）から第 52 回（令和元年）までは SII として実施
※第 22 回（平成元年）は 2 頭が 3 着同着
※記録は令和 8 年 11 月 1 日時点

■上位人気馬の好走率はまずまず

単勝 1 番人気馬は 21 勝、2 着 11 回、3 着 7 回で、3 着内率が 67.2%、単勝 2 番人気馬は 11 勝、2 着 14 回、3 着 5 回で、3 着内率が 51.7%、単勝 3 番人気馬は 11 勝、2 着 9 回、3 着 9 回で、3 着内率が 50.0%となっている。上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■3 番人気以内の馬が上位を占めた例も多い

過去 58 回のうち 43 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 23 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 6 回ある。

■牝馬は 5 勝、外国産馬は未勝利

牝馬の優勝例は第 6 回（昭和 48 年）のオロマツホース、第 10 回（昭和 52 年）のリマンドタイコウ、第 23 回（平成 2 年）のフジノリニアー、第 29 回（平成 8 年）のセイントサブリナ、第 44 回（平成 23 年）のドラゴンシップと、計 5 回ある。なお、外国産馬の優勝例はまだない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、8 勝の的場文男騎手が単独トップ。4 勝の高橋三郎騎手が単独 2 位、3 勝の赤間清松騎手、宮浦正行騎手、矢野貴之騎手が 3 位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4 勝の矢作和人調教師が単独トップ。3 勝の朝倉文四郎調教師と佐藤賢二調教師が 2 位タイとなっている。

■外寄りの枠番が好成績

枠番別の勝利数を見ると、8 枠（14 勝）が単独トップ。7 枠（10 勝）が単独 2 位、5 枠（8 勝）が単独 3 位となっている。また、馬番別の勝利数を見ると、11 番（7 勝）が単独トップ。9 番と 10 番（各 6 勝）が 2 位タイ、2 番、4 番、6 番、7 番、8 番（各 5 勝）が 4 位タイである。なお、未勝利の馬番は 14 番と 16 番だけだ。

＜伊吹雅也＞